
とある兄妹の連續転生物語～憑依編～

あいあむウィーゼル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある兄妹の連續転生物語（憑依編）

【NZコード】

N4164Z

【作者名】

あいあむウイーゼル

【あらすじ】

始まりはもう思い出せない。魂が摩耗するほど遠い昔。幾度となく転生人生を繰り返す兄妹が、とある世界の主人公達に憑依する事になった。ある意味最強とも言える彼らは、どんな物語を紡ぐのか。警告：この作品は所謂「最低系」です。また、主人公達が主要人物に憑依するため、ハッキリ言つて完全に別人です。そういう話が苦手な方は読むことなく回れ右する事を作者は推奨します。

キャラ紹介（前書き）

ネタ倉庫の「連續転生物語」を読んでない方には、どういう設定か分からぬかもしれません。

なので、こっちで簡単にキャラ説明をさせていただきます。
特に物語に大きく影響するわけではないため、こっちを読んでもネタバレになる事は無い、と思います。

キャラ紹介

デフォルト名・風峰陸斗
リクト・カザミネ

生者の兄の方。一人称は「俺」。

基本的に常識人だが、稀にテンションが悪ノリする事があり、そうなるとやり過ぎる事が多い。

玲夜に関しては「兄妹」という関係を超越した絆を持つており、長い転生人生を送る中では肉体関係を結んだ事もあれば、結婚した事もある（当初はあくまで妹だったが、精神が長く生きる中で摩耗してしまったのかもしれない）。

利用できるものは何でも利用するタイプで、自分の容姿が美形なら、それを使って異性を籠絡する事も厭わない。
ISの世界において、何故か死亡してしまった『織斑一夏』に憑依する。

デフォルト名・風峰玲夜
レイヤ・カザミネ

転生者の妹の方。一人称は「私」。

誰にでも丁寧な口調で接するが、陸斗の敵と見なした相手には決して容赦はしない。

基本的にやんちゃをするのが玲夜、諫めるか悪ノリするかなのが陸斗である。

陸斗に対し、元から強い愛情を抱いていたが、転生人生を送る中でそれがさらに強まつたのか捻れたのか定かではないが、兄妹や異性では收まらないほどの愛を抱き、それは例え実の兄妹で転生しても厭わないほど。

嫌いな相手は徹底的に磨り潰し、完膚無きまでに絶望させて倒すのが好み。

ISの世界において、偶発的な要因で死亡してしまった『篠ノ之簞』に憑依する。

“彼女”

転生システムの管理人。

当人曰く、「神様であり、死神でもあれば、悪魔でもある」らしい。陸斗達には幼い少女に見えているが、外見は見る人によって千差万別で、「長い髪の老人」に見える人もいれば、「翼の生えた女神様」に見える人もいるとか。そもそも性別があるのかすら不明なので、“彼女”と形容する事自体間違いなのかも知れない。

元々の始まりは、世界から弾かれてしまった陸斗達を別の世界へ転生させた事から。人生が終わる度、また別の世界へと転生させていく。“彼女”にしてみれば、陸斗達の存在は数少ない娛樂であり、彼らがどう生きるのか眺めるのが楽しみらしい。

全ての世界を把握しているわけではなく、稀に「激しく力オスな世界」があつたり、他の転生者がいたりするのは、“彼女”的責任では無く、「形骸化したシステムの弊害」らしい。

プロローグ…ある意味、これって円環の理？（前書き）

以前、活動報告でお知らせした通り、投稿してみる事にしました。
と言つのも、ずっと同じ話を書いてるとスランプになつてしまふので、たまには「いつこいつ最低系なお話を書いて気分転換でもしてみようかな」と。

改めても「一度言つておきますが、これは主要人物に2人の兄妹が憑依する話です。そのため原作の2人はほとんど登場しません。さらに言つとこれは「最低系」と呼ばれるジャンルです。

多作品のネタはありますし、ハーレムっぽくなるかもしれません。さらにも言つと最強になるかもです。

そういうた表現が苦手な方は、スクロールする事無くウインドウを閉じる事を推奨します。

それでも読みたいという方は画面をスクロールしていただいて結構です。転生兄妹の憑依人生をお楽しみください。

プロローグ…ある意味、これって円環の理？

「罰ゲームです」

「「は？」」

通算……何回目かは忘れたが、もう確實に千年は超えてるだろ？
転生人生を送つていてる俺たち兄妹。

前回の世界、コズミック・イラの太陽系」と『機動戦士ガンダムSEED』の世界の人生を終えて、再びここへと戻つて来ていた。

戻つて来た俺たちを出迎えたのは……怒り心頭という様子の“彼女”。

お説教が始まつた。

「あなた達やり過ぎなんですよ！ やつ過ぎたりこいつちで調整するのが大変だつていつも言つてますよねー？」

「いや、つい……すまん」

「すまんで済むと思わないでくださいーー！」

とりあえず謝るが、涙目でそう怒鳴る“彼女”。

ぶつひやけ怖くないし、可愛いとしか思えない。

「…………元はと言えば、あなたが物騒な世界にばかり転生させるからでしょうね？」

どこか諦めたように、玲夜がそう呟く。

まあ、ガンダム関連は全部戦争だしな。大規模ビームだったり、コロニーに毒ガスだつたり、コロニー落としだつたり、核ミサイル撃ち込まれたり、金属生命体襲来だつたり…………物騒な事しか思い浮かばない。

「仕方ないじゃないですか。…………その方が楽ですし、面白いですし」

「ぶつちやけた！？　ぶつちやけてるぞ、おい！　しかもその理由なんだよ、最低だな！」

「つまらない仕事ばっかりしてる私の唯一の娯楽なんです！　それあなた達だつて途中からノリノリだつたじゃないですか！　何太陽炉なんて作ってるんです！？　どれだけバランスブレイクだと思つてるんですか！？」

「作ったのは俺じゃないぞ、イオリア・シュヘンベルグだ」

てか、何でコズミック・イラにイオリアがいて、太陽光発電システ

ムの論文があるんだよ。

何で「乙女座でセンチメンタリズムな武士仮面」とか、「不死身の炭酸飲料」とか、「露西亞の穴熊」なあの軍人がいるんだよ。

家系図やテレビ見て、見知った名前がいくつかあって思わず噴いたぞ。

「…………いや、あれは私も想定外だったかなと。たまにあるんですね～、変にクロスした世界」

ああ、それはよく知ってる。

確かに前に経験したカオスと比べれば、今回のはまだマシだったと思う。

大分前だが、「けいおん」や「らき すた」などの平穏その物が混ざり（これだけなら問題無い）、さらに「スーパー戦隊」や「仮面ライダー」が混ざった（明らかにこの辺はおかしい）カオスな世界に転生した事があった。

……その時の事は衝撃的すぎて、思い出せるが思い出したくない。記憶の底に沈めておきたい。

ただ一つ言えるのは、もう一度とあんな世界は「」免だ。

「それはさておき…………あなた達やり過ぎなんですよー！」

否定出来ない。

さすがにダモクレスはやり過ぎたかな～って思っていたが……つん、反省はしている。

いや、実際に使うつもりは無かったんだよ。あくまで抑止力、脅しのための道具であって、フレイヤを撃つつもりは無かった。

まさか、内部でジャスティス核爆発させて、その連鎖反応で恐ろしい事になるとは……。

だって普通にそんな事しないだろ！？ 何でよりこよつて核爆発なんだよ！

「だからって何でダモクレスなんです！ セめてメントモリにしてなさいよ！」

「そっちかよ！…」

あれは…………一応考えたが、軌道エレベーターが無かつたらダメだし。

「まあ、その辺にしておきましょ。何なんです、罰ゲームって

「こえ罰ゲームといつ程ではないんですが、とりあえず厄介な仕事

をお願いしようかと」

「は？」

「ぶつちやけると、想定外の事態が発生して一つの世界が壊れそうなので、お一人に修復してもらいます」

……嫌な予感しかしない。

「率直に言つてください。何をしろつて言つんです」

「ぶつちやけると、「インフィニット・ストラトス」で、とある主要人物が死んでしまったので埋め合わせに憑依してください」

ああ、そつ言う事か。

転生の別物として『憑依』といつものがある。

転生だとその世界の住民として最初から生まれ落ちる事なのだが、憑依だと世界の住民に魂の状態でくつついて、その人物になる事を意味している。

もちろん、身体を乗つ取る事と同義なので、俺たちとしては罪悪感のような物を感じた事があった。最初の方は抵抗感もあったし。

……だが、もう何百年も転生したりしてきたので、もうそんな感情はほとんど湧いてこなくなってしまった。やはり魂が摩耗していく

るという事なのかもしない。

それでも特定人物に憑依するという事は、ある意味最初からフラグが建つてやうのようなものなので、出来る事なら憑依は避けたいものだ。

例えば主人公に憑依だと、死亡フラグやその他諸々のフラグが建つてしまふ。主要人物以外でも、変に死亡フラグが建つてキャラに憑依してしまい、酷く厄介な事件が起きた事もあった。

具体的に言つと、「なのは」でだな。俺、高町なのはに憑依したんだぞ？ あり得ないだろ。

あの時の話はしたくない。出来れば思い出したくもない。女になるなんて一度ど「免だ。

「で、誰に憑依するんだ？」

「それは～、憑依してからのお楽しみで」

……この時、しつかり聞き出しておけば余計な混乱は無かつたのかもしねない。

「う…………」

頭が痛む。

ぼやける視界が、徐々に広がっていく。

視界に飛び込んでくるのは、白い部屋。ビリヤリベッドに寝かされ
ていたらしげが、ここは…………。

「病院、か？」

男の声だ。女に憑依しなかつた事を内心喜びつつ、周囲を見渡す。

ビリヤリ病院の…………それも個室らしい。

痛む頭に手を当てるに、何かが巻かれている。これは…………包帯？

「アイツが言つてた『死んだ』っていうのは何う事なのか…………

…

何かしらの怪我を負い、それで死んでしまった。

さすがにそのまま放置は出来ないので、代わりに俺を突っ込む事で
安定させてるとこいつといふだろ？

……で、俺はいつたい誰なんだ？

「インフィニット・ストラトス、だつたよな」

ちょっと待て。

今思い出してみたが、あれには男性が恐ろしく少なかつた気がする。

俺は男に憑依出来た事を喜んでいたが、これってある意味フラグなんじや……。

「まさか……」

嫌な予感がしつつも、鏡を探す。

部屋に備え付けの鏡を見つけ、中を覗き込んで……後悔した。

「よつこよつて織斑一夏かよ、コンチクショウーー！」

思いつきり吠えた。

よりによつて何で織斑一夏なんだよー。せめて五反田弾とかならまだ平穀だつたよー！

まあ、確かに織斑一夏が死んでしまえばとんでもない事になる。てか、主人公がいない物語は完璧破綻するし。

この分だと、玲夜はヒロインの誰かに憑依していそつだな。

「…………とりあえず、これまでの事を思い出してみるか」

俺はもう既に織斑一夏なので、その記憶はある。

えつと…………まだIIS学園に入る前だな。今はまだ中学生か。

第2回モンド・グロツソに千冬姉の応援に来て、会場へ向かう途中、見知らぬ女性にいきなり氣絶させられてどこかの廃工場へ連れて行かれた。

…………で、何か言い争いのような物を聞いたが、その直後銃声が聞こえると同時に意識が…………。

(よく分からぬが、仲間割れでも起きたらしいな)

そこで織斑一夏は死んでしまい、代わりに俺が突っ込まれた……と。しかし、何でこんなイレギュラーが発生したんだ？ よく憶えてないが、特に怪我はせずに助けられるはずじゃ……。

(…………転生者でもいるのか？)

2番目に嫌なパターンとして、自分達以外のイレギュラー……他の“転生者”の存在がある。

まあ、無害な奴もいるんだが、たまに厄介な奴もいたりする。

画面の向いの君たちは「俺TUEEEEEREするハーレム好きな最低系転生者」だと思ってるみたいだが、まあそれも厄介だが、それ以上に厄介なのは「全てを幸せにしたい」と考える奴だ。

『無能な働き者。これは処刑するしかない』という言葉がある。

原作通りに進めようとするならまだいい。だが、なまじ不幸なキャラがいて、それを幸せにしようと改変する奴こそ、厄介極まりない。かなり昔の話をしよう。俺たちがそんな転生者の所為で、極めて多大な被害を被つた時の話を。

2回目か3回目の『リリカルなのは』だった。そいつはアリシア・テスタロッサの事故死を食い止め、テスタロッサ家と幸せな未来を

築こうとした。

しかし、それが何を意味しているか分かるか？

アリシアが死ない＝フェイト・テスタークサが誕生しない事を意味している。

すなわち、原作が始まる前から破綻してしまっているのだ。

もちろんジュエルシード事件については、平和的に解決はした。

運搬船は原因不明の事故を起こし、運命通りにジュエルシードはバラまかれた。

……ただ問題だったのはそこからだ。具体的に言つと、闇の書事件やJ.S事件。

フェイトがいない、すなわち戦力が低下する。原作だとシグナムと戦つてたが、彼女ケいないのでシグナムを食い止める人間がない。

フェイトがいないので、その使い魔たるアルフも存在していない。ぶっちゃけザフィーラも止まらない。1人くらいならクロノが何とか出来るが、さすがに2人は辛い。

仕方なく、俺たちが出張る事になり、最終的に六課まで頑張る事になつた。

さらに言つとだが、プレシア・テスタークサが完成させるはずだった「プロジェクトF」についても完成される事なく、そのためその技術を用いて誕生するはずだった生命は生まれる事が無い。

すなわち、エリオ・モンティアルは誕生しなかつたのだ。

……なお、戦力ダウンのために俺たちが苦労したことは言つまでもない。

だって、どうせ世界終了のお知らせ級にヤバイ事件だぞー！？
ほつとこたら平穏とはほど遠くなるぞー！？

「…………いないと、いいな」

私、風峰玲夜が『篠ノ之簣』に憑依してから一〇年五ヶ月が経とうとしている。

色々あつた。ええ、色々あつたんですよ。

篠が篠ノ之束を嫌うのも分かる。あのテンションはウザ過ぎで。

少し離れて接するならともかく、常時アレはキツー（ひょりと邪険にあじらつと、この世の終わりの如き状態に陥り、首を吊るつとするので大変だった）。

「ふう……」

素振りを終え、竹刀を傍らにおいて一息入れる。

憑依してからは出来る限り、篠ノ之篠らしい言動と行動を心掛けている。一応、彼女の記憶と人格については完全に理解しているので、「『ひ』いう道を進むんじやないか」という感じです。

剣道を続けているのもその一つ。…………少しやり過ぎて、全国三連覇とかやっしゃいましたけど、特に問題無いですよね？

それはともかくとして、やつぱり高校はエリ学園に進学する事になりました。

まあ、私がそつちに進むのは『監視』と『保護』といつぱりが大きい。

何せ、ISを開発した篠ノ之束の実の妹であり、政府側としても監視する必要性がある。

同様に両親もそのような扱いを受けているわけだが、特に私の

場合、姉が溺愛する数少ない相手であり、篠ノ之介の掌握を田舎む人間からしてみれば、充分に狙われる要因ともなる対象となる。

IISの生みの親である彼女が特定の団体に力を貸せば、間違いなく勢力が傾く。だからこそ、私は特に監視と保護が強化されているわけなんですが……。

「篠ノ之さん、 大変よ！…」

と、飛び込んで来たのは同じ剣道部の同級生。

胴衣のまま、その手にはポータブルテレビが握られている。

「ほら！ 世界初の男性IIS操縦者だつて！」

「ん？」

画面には、すり下ろし微妙そうに強ばつた表情の織斑一夏の姿があつた。

…………うわー、やっぱりこうなつちやつたんですね、兄さん。

プロローグ・ある意味、これって円環の理？（後書き）

何百年も転生人生を送ってきて、何で他の世界のことを憶えているのか。

もしかしたらこう思ふ人もいるかもしません。

「嫌な出来事」って、妙に印象強く思い出に残つてたりしません？

例えば、恥をかいたり、ショックを受けたり、そういうつた嫌な記憶が鮮明に残つてたり……しません？

私が自分の具体例を挙げるとですが、小学生の頃に「新撰組の隊員で誰を知っていますか？」と先生に聞かれ、迷わず「斎藤」と答えたら「るろに剣心だろ」と笑われた事があります（実在の人物ですが、やっぱり子供としてはそっちの方が印象強いらしく、かなり恥ずかしい想いをしました）。今でも忘れられません。

そのため、陸斗達にとつて「激しく嫌な思い」をした出来事について、憶えていたくないのに憶えていてしまいます。

「ガンダムSEED」に〇〇成分が混ざった世界は……まあ、まだマシです。ただ、激しくカオスな世界に関しては、衝撃度が強すぎて忘れられない。そんな感じです。

彼らが体験した世界については、ネタ倉庫にあるものもそうですが、要望があればもしかしたら番外編という形で書き下ろすかもしれません。

第1話：一夏君が木刀を振るつ。ただそれだけの話（前書き）

今回、ネタが多数あります。ご注意ください。

第1話・一夏君が木刀を振るつ。ただそれだけの話

「ぐはつ！」

木刀を振るい、前方の不良を吹き飛ばす。

まだそこまで筋力は付いていないため、今の一撃程度ではせいぜい骨折もしていないだろう。

……だが、大分勘も戻ってきたな。

「乙女座の私では、センチメンタリズムを感じずにはいられないな」

……ま、9月27日生まれだから天秤座だけどな。

「な、何なんだよこの変態は……」

む、失礼な連中だ。

そう言えれば自己紹介……というか、名乗りを上げていなかつた気がする。

「ならば敢えて言わせてもらおう。武士仮面であると……」

「 「 「 「名乗つてねえ！－」 「 」 」

何を言ひ。この仮面が田に入らぬか。

前の世界の時、正式に「ミスター・ブシードー」の名前と仮面を、俺は正式に譲り受けた（本人曰く「勝手にそう呼ぶ」から、押ししつけられたに近いのだが）。

……まあとりあえずお前ら、倒されろ。

「つぎけてんじやねえつ！－」

鉄パイプやらチエーンやら木刀を握り、不良共が俺へと迫る。

確かに数だけなら驚異的だ。普通に十数人相手にするなら、結構手間がかかる。

だが、だからこそ訓練になる。

振り下ろされる鉄パイプを、木刀で横へと弾き、腹に蹴りをお見舞いする。

そのまま振り返り様に、背後にいた不良へ横薙ぎに木刀を叩き込み、再び構えを取る。

「「、「」のガキ……強え！」

「どれほどの戦力差であろうと、今日の私は阿修羅すら凌駕する存在だ！－」

.....なあ、一夏。

「どうした、弾？」

「これ、お前の仕業だろ」

そう、隣の席に座る親友に、週刊誌を見せる。

その見出しへは『敢東連合壊滅！？ 謎の戦士、ミスター・ブシド

一とは?』

『……寧にも、そこには陣羽織つぽい服装に、武者つぽい仮面を装着した一夏らしき人物の写真が載っている。

……その足下に、積み重なった不良達がいるのなんて、俺には見えない。

「何の話だ?」

「いや、これ明らかにお前だろー?」

確かに顔は隠れてるけど、髪型とか顔の輪郭とか目とか、確実に「イツ」としか思えない。

てか、何だよミスター・ブシドーってー?

「武士仮面は武士仮面だろ? 僕は知らん」

「…………お前、向こうから帰ってきて性格変わったよな

何でもコイツ、モンド・グロッソに千冬ちゃんの応援に行って、誘拐されて頭撃たれたとか。

ワイドショーでそれ見て、飲んでた茶噴き出したぞ。蘭なんてショックで倒れるし……。

鈴も今すぐ飛行機に飛び乗るつもりして、アイツの両親が必死に止めてたくらいだ。

で、そのワideonショーから2週間くらい経つて戻つて来たんだが……別人と言つてもおかしくないくらい変貌していた。

「ねえねえ織斑君、昨日のノート見せて貰つてもいい?」

「ああ、いいよ。ほら」

「ありがと」

……いや、コイツは元からモテではいた。

家事は万能でスポーツもそれなりに出来る。おまけに顔もかなりイケメン。

自分を中心とした恋愛事に対し、超絶的なほどに鈍感さ（人呼んでキングオブニーブチン）を除けば、「このリア充が！」と叫びたい。

これまでクラスの女子はもちろん、鈴や蘭からもそれなりにアプローチを受けていたが、見てるこっちが不憫になってしまつほどにスルーしていた。

去年のバレンタインも、幾つも本命チョコ貰つておきながら、「食べれないから」と言つ理由でクラスの男子に配つており、タコ殴りにしたのは記憶に新しい（蘭が気合入れて作ったのもその中に入

つており、その時の俺は殺意の波動に田覚めたかもしれない）。

それが今ではこの通り……行為自体は前と変わらないが、接し方がより洗練されたものになっている。

（…………「イツ、本当に一夏か？）

本当は誘拐された時に入れ替わったんじゃないかな？

……いや、もしそうなら千冬さんが即座に斬り捨てるな。

織斑一夏は基本的に美男子である。

先ほども五反田弾が評価したように、家事は万能、顔立ちも整つて

いるし、運動能力だって高い（しかも現在進行形で成長中）。

ただ、彼の最大にして最悪の欠点とも言つべきが、色恋絡みに関する鈍感さである。

「付き合つて…」と言えば、「（買い物に）付き合えばいいんだな？」

「好き…」と言えば「（友達して）俺も好きだぞ」

そのため、これまで不憫すぎるほどのスルーっぷりを発揮し、フラれていった女子の数は数え知れない……。

（せつかくのイケメンスペックなんだし、もつと有意義に使わないとな）

だが今回、中の人が違う。

風峰陸斗は長い人生を経験してきたため、人の心の動きにはそれなりに機敏であり、本来の織斑一夏ほど鈍感じやない（一緒にされる方が迷惑だ）。

陸斗は基本的に、自分に備わったものは何でも武器にしてしまう。容姿が女性受けするのなら、それを有効活用し、女性を籠絡する事も厭わない。

今日はちょっとした用事があり、カジュアルな服装で固めて街へと

乗つ出し、一夏は喫茶店で一息ついていた。……。

「…………あ、あの」

振り向くと、そこには何人かの少女の姿が。

自分とそつ変わらない年頃だらう。ショッピングにでも来たのか、手には紙袋が提げられている。

「よかつたら、一緒にお茶しませんか？」

少し緊張したよつこ、少女がそつ訪ねてくる。

一方の一夏だが、微笑を浮かべつつも冷静に少女達を見定めていた。

なかなかの美少女だ。先約やえ無ければ、このままトートにしゃれ込んでも悪くはない。

「悪いが、今日は待ち合わせをしてこてな」

「や、そうですか…………」

「また今度、時間が空いている時に誘つてほしいな」

ちゅうと残念そうに立ち去っていく少女達。

そんな彼女達と入れ替わるようにして、1人の少女が喫茶店へと入り、一夏の正面の席に座る。

「…………隨分と軟派なんですね。私、お邪魔でしたか？」

「おいおい、その口調は少しマズくないか？」

「心配あつません。監視はいませんし、それにあなたと接する時くらい素に戻らせてください」

……普通、敬語は素で使うものじゃないんだがな。

ま、どうでもいいが。久しぶりだな、ねいや 篠。

「ええ、お久しごりです。一夏」

きっかけは、一通のファンレターだった。

差出人の名前は『風峰陸斗』。

内容はそこまでおかしなものではなく、じく普通のファンレター。もし、篠ノ之箒が本来のままだったら、単なるファンからだと思い、そう気にも留めないだろ？

しかし、篠ノ之箒が私だったからこそ、このファンレターは特別な意味を持つ。

その住所へ一通の手紙を出す。名前は篠ノ之箒ではなく、『風峰玲夜』で。

…………数日後、再び『篠ノ之箒』宛てに手紙が届く。今度は『織斑一夏』の名前で。

「まさか、ああいう頭脳プレイで来るとは思いませんでしたよ」

「仕方ないだろ？ もしお前が篠ノ之箒じゃなかつたら、余計に混乱する事になる。いくらでも慎重になるぞ」

モ力を飲みながら、そう答える一夏。

まあ、もし篠だつたら間違いなく混乱するでしょうね。いきなり意中の相手から手紙が来たわけですし。

それが今後、どんな影響を与えるか分からない。小さな出来事が大きな影響を引き起こす事を、私たちは身を以て体験してきたのだから。

「では、私が篠ノ之篠で無かつたりひとつもりだつたんです?」

「やっぱり、その時が来るまで待つしか無かつただろうな」

そりやあ、そうですよねえ。

主要人物なのだから、やはり原作が始まると期にならなければ会つ事が叶わない相手だつているはず。

もちろん、それなりの立場について、時間がある人間なら接觸する方法があるかもしれませんが……。

「そう言えば、お前はいつから憑依してたんだ?」

「8年ぐらい前ですね。イレギュラーと言つても、ひとつは単に事故に遭つただけですよ」

事故で頭を強打して、奇跡的に助かった……という事になつてます。

少なくとも、この辺りに誰かしらの意図は見られませんでしたし、単なる偶然と判断してもいいでしょ。う。

そつちは……例の誘拐ですか？

「ああ。頭撃たれてお陀仏になりかけてた。仲間割れか知らんが、いつもにはイレギュラーがありそうで嫌になつてくる」

揃つて苦い顔になりつつも、ケーキを口に運ぶ。

一番嫌なパターンとして、転生者が関わつてゐる事。

下手に干渉して、それで厄介な事になる。それも経験した事があるので、頭が痛くなつてくる。

篠ノ之箒の記憶の中だと……それらしき影はいませんね、多分。

「今のところ、いちもな。……だが、警戒は怠らない方がいい。お前もしつかり『篠ノ之箒』でいてくれ」

「分かっている。お前にさ、変な真似はするんじゃないぞ」

もう何年も猫被つてますし、これくらいは容易いですよ。

姉さんですり、私の猫がぶりは見抜けていません。伊達に何千年も
転生者やつしませんからね~。

「ただいま」

と言つても、家には誰もいない。

千冬姉はドイツだし、会い鍵を持つてる人間はない。

……千冬姉と言えば、誘拐事件以後何だかよそよそしい。憑依には気づかれてないと思うが、やはりどこか織斑一夏とは違う部分を感じているのかもしれない。

まあ、その辺りは時間が解決するだろつ。ドイツから戻ってきてから的话だ。

「それまでにいくつか調べておかないとな……」

まず調べるべき事は、俺たち以外のイレギュラー…………転生者が存在していないかどうか。

形骸化したシステムの残滓が、ごく稀に転生者を送り込む事がある。世界や俺たちにとって有害になるのであれば排除する。無害ならば放置する。

籌との会話でも言つていたが、今現在までそれらしき人物は俺の記憶の中には存在していない。

巧妙にそれを隠しているのかもしぬないが、もしそうならちょっとばかり厄介な相手になる。

「まずはググってみるか」

この世界に「あり得ない」事が起きていたら、基本的に転生者の仕業だ。…………まあ、カオスな世界のよつに世界観を混ぜ込む事はさすがに出来ないと思うが。

パソコンを立ち上げて、インターネットに接続。検索エンジンを呼びだしてつと……。

「…………物騒な事件が起きてるもんだな」

検索エンジンに掲載されていたニュースが目に飛び込んでくる。

つい先日、自分の身に起きた事件を棚に上げて、そう呟く。

何でもどこの国代表がモンド・グロッソの個人競技において、相手に過剰な攻撃を加え、反則ストレスで勝利を掴んだ事が問題視され、この前まで協議されていたというニュース。

元々その代表はかなり問題のある性格らしく、他にも問題を起こしているとか起こしていないとか…………お、すげい美人。鈴が見たら確実に羨むだろうな…………。

「つとと、いかんいかん」

余計な事に気を取られてしまった。

しかし、何をキーワードにすべきだらうか。

まあ、適当に俺が生まれたであろう時期に、何かしらの事件が起きたか調べてみよう。

「…………おお、出でぐる出でぐる」

その中でも目を引いたのが、「親が子供を殺す」という事件。

遺伝上、生まれるはずのない形質を持った子供が生まれてきたために、夫が妻の浮気を疑い、子供諸共殺害するという事件だ。

…………そりゃあ、純日本人なのに金髪に碧い瞳とかだつたら怪しつて。

他にも、子供の異常死が多数報告されている。

それでも生き残った人間がいるらしく、分かりやすく言つなら「ふるいにかけられて、残つた」という事なんだろう。

「エルトナ・ハーミット、か

13歳にして、フランスの代表候補生を務める彼女は、国家代表に最も近い存在だとそれでいるらしい。

自身で製作した専用機「ラファール・リバイバル」を駆る姿は「聖少女」と呼ばれているとか。

…………え？ 何で氣づけたかつて？

そりやあ氣づくって。見た目が某歌姫と瓜一だし、動画の発言が
ネタ塗れだし。

「敵対さえしなければ、大丈夫だろ」

そう、その時はまだ楽天的に考えていた。

第2話・イレギュラーは知らぬ間にいなくなる

エルトナ・ハーミットは転生者だ

前世で死んでしまった彼女は、何の因果かこの「インフィニット・ストラトス」の世界へと転生を果たした。

生まれはフランス。両親はデュノア社に務める研究員。

彼女は幸い、あらゆる能力に秀でていた。特典なのがどうか分からぬが、IS適正値はS。

第2世代の「ラファール・リヴィアイヴ」を改造して、自分の専用機を作り上げる事が出来た。

彼女の実力を認められ、代表候補生に選抜もされた。

あたしは主人公だ。この世界に舞い降りた、オリ主だ。

……………そう、つこさつきまではそう思っていた。

「な、何なのよアイツはー?」

絶対的な恐怖。

今のエルトナを支配しているのは、それだった。

震える身体をビリビリにか抑え込み、相手を見据える。

……上空から彼女を見下すその女性は、ただ睡っていた。

「あらあ？ 私に最も近いって聞いてたんだけど、この程度？」

リフィリス・シャミナード。通称“シスター・リフィリス”。

艶やかな銀色の髪に金色の瞳を持つたその女性は、現フランスの国家代表だ。

IJS関連において、篠ノ之東や“ブリュンヒルデ”織斑千冬に次いで名の通った存在。

第2回モンド・グロッソでは個人戦を始めとする各種競技で優勝に輝いたが、ある問題を起こした事で総合優勝の座にはあがれずにいる。

「この、殺人狂……ツ！」

エルトナが震える声でそう叫ぶ。

シスターと呼ばれてはいるが、彼女は実際に聖職者ではない。

ある事件によつて彼女は聖職者としての道を歩めなくなつたのだが

その経緯はおいおい語る事にしよう。

彼女が総合優勝出来なかつた理由。それは彼女の性格に問題があつたからだ。

殺人狂。先ほどエルトナがそう呼んだように、リフィリスは他者を殺す事で快樂を得ようとする異端の存在。

これまで公式の試合では、絶対防衛をも撃ち抜く過剰な攻撃を加え、流血沙汰にまで発展するケースが多くある。……表沙汰にはなつていなが、非公式の試合では相手を死に至らしめた事もあるという。

それだけの問題行為を行つていながら、何故相応の処罰が下らないのか？

それは彼女が、その欠点さえ除けば極めて優秀なIJS操縦者だからである。

「つまらないつまらない、もう一つおまけにつまらない」

ひどく愉快そうに、リフィリスは嗤つ。

激昂したエルトナはリフィリスに向けて、右手のマシンガンを放つ。

無数の銃弾は正確に対象と向けられているが、対するリフィリスはわずかに重心をずらす事で、必要最低限の動きで攻撃を躱す。

格の違い。レベルの差。

こうなったのは全て、エルトナの自意識過剰からである。

確かに彼女は強い。才能もある。国家代表に最も近いとも言われている。それが彼女を天狗にしてしまった。

「あれだけ啖呵を切つておきながら、じおんなに雑魚なんてつまら
ない」

「...」
「...」
「...」

ただ引き金を引き、マシンガンを乱射する。

激昂するままに銃弾は放たれる。狙いなどつけられておらず、かえつて回避は難しい。だが一切被弾しない。

何故当たらぬ!

エルトナの頭の中には焦りが生まれている。

恐怖と焦り。それは判断力を鈍らせる。

瞬間、赤い液体がアリーナに散った。

理解するよりも激痛が早い。

マシンガンを握っていたエルトナの右腕が、『ラファール・リバイバル』の右腕部と共に切断されたのだ。

あり得ない。シールドエネルギーはまだ死きていない。絶対防御も正常に作動している。

なのに、腕が斬られた。操縦者に傷を負わせた。何故？

「あらあ？ つるをかつたから斬っちゃった

きょとんとしたように咳くリフイリスの手には、片刃剣が握られており、その白い刀身は鈍く輝いている。

リフィリスの専用機、第3世代E.S.『アズユール・ゼフィーレ』。その固有武装『デュランダル』。

アズユールには基本的に、それ以外の武装は無い。状況に応じて切り替える事はあるが、彼女は『デュランダルによる近接戦闘を好んでいる。

「ん……」

「ひつ！」

ゆっくりと近づいてくるコフィリスに、エルトナは後ずさる。

あまりにもリアルな死の恐怖。

逃げられるはずがない。それでも、彼女は後ずさる。

迫り来る死の宣告を、少しでも後送りにしようと。

「じゃあね」

にっこり微笑んだリフィリスの顔。

それがエルトナの見た最後の光景だった。

それでもシャミナードと戦つて、その程度で済んだのなら運がいい。

「…………そつか」

『右腕を切断された上、肩から脇腹にかけてバツサリ斬られたそうですが、どうにか一命だけは取り留めたと。ただ、操縦者として復帰出来るかは……』

「それでその、エルトナ・ハーミットだつたか？ その候補生はどうなつたんだ？」

非公式の試合で戦つた時はギリギリで勝てたが、もう2度と戦いたくない相手だ。

実力だけならば、私と同等…………否、私をも上回るかも知れない。

後輩の山田君からかかつてきた連絡に、私は頭を抱えていた。

リフィリス・シャミナードがまた問題を起こしたらしい。

「…………」

あれはただ戦いだけを求めている。モンド・グロッソのよつな「スポート」としての戦いではなく、戦場に存在する血みどりの戦い。

純粹な命のやり取りを奴は求め、その結果、相手を死に至らしめる。至らしめなくとも再起不能レベルの重症を負わせる。……だから殺人狂などと呼ばれているのだろうが。

奴を非難する者は多いが、意外にも支持する者も多い。

シャミナードの支持者は主に軍人や武術家だ。それも男女関係無く、本物の戦いを知っている者から支持を受けている。

『それはそうと、そつちはどうですか？』

「まあまあだ。さすがは軍人、教え甲斐がある」

少しくらい無茶をしても乗り越えてくるのだからな。

日本……HS学園ではこうもいかない。指導方針が委員会によつて定められているため、私の考えた指導法は適用できない。

『あんまり無茶しないでくださいよ？ 一夏君も心配してましたし

……』

「…………ちょっと待て。今なんと云つた？」

今、非常に気になる人名が聞こえたぞ。

『先輩の弟の織斑一夏君ですよ。』の前、街に出かけたらたまたま会って、お茶に誘われたのでお言葉に甘えちゃいました』

「そ、そりゃ

た、確かに山田君と私が写っている写真は部屋にあるし、それを一夏が憶えていたのかかもしれない。

……それにしても、あの事件以降、一夏の雰囲気ががらりと変わった。

これまでの一夏の優しいそれとは違い、意識を取り戻してからの一夏は、

と言つよつ、女を茶に誘つだと？あれにそこまでの甲斐性があつたか？異性からの好意に果てしないほどに鈍い野暮天に。

『先輩の事、心配してましたよ？「姉の事、よろしくお願ひします」つて、すつじぐれ礼儀正しくて優しい子でしたね』

電話口からほ、やたら一夏をべた褒めする山田君の声が聞こえる。

…………あり得ない。いや山田君じゃない、一夏だ（山田君が妄想混

じつになってしまったのはこいつの事だ)。

田上の相手には相応の態度は取るだらうが、山田君がここまでべた褒めするところは、それなりのエスコートをしたのだと想像出来る。

自慢じやないが、我が弟はそこまで男として完成されていない。その辺りはバレンタインの一件でも分かるはず(話を聞いた時はさすがに不憫すぎて、思わず叩き斬つてやろうかと思つた)。

思春期なのだから、価値観が変わる事くらいあり得るが……。

『え、でも私年下は経験なくて……それで言つたら男の人とお付き合いした事もほとんどないですけど、やっぱりお姉さんだから私が出来るだけエスコート……ううん、がつたり来るのを優しく抱きしめて包容力を……』

……ああ、分かつている。そろそろ山田君を止める事にしよう。

これ以上放置しておくと、——18歳未満お断りの世界《ノクターン行き》になりそつだからな。

「山田君、そろそろ戻つていい」

『…………ハツー!』

そういう事は個人の趣味だが、当人と話してる最中にその弟を妄想のはけ口にするのは如何なものかと思う。

正直、引く。

肉体的な能力……例えば戦闘技能についてはまだまだだ。

実戦で勘を取り戻そうとしているが、前の世界が世界なだけに、イマイチ取り戻せそうにない。

生身で戦つてた世界ならともかく、MS乗つてやつてたからな……
…生身でやり合う事はほとんど無かつたし。

だが精神的な能力……魂として憶えている経験は充分に生かす事が出来る。

具体的に言つと、「ナ」で始まつて「ば」で終わるお金稼ぐ方法とかそーゆー事だ。

「すげーな、坊主！ これで5連勝だぞーーー？」

ちょっと汚い身なりのおっさん、そう言つて俺の肩を叩く。

もちろん、まだ中学生の俺が馬券を買う事は出来ない。

未成年が公営ギャンブルをする事は法律で禁止されており、競馬場に入る事は出来ても馬券を買う事は出来ない。せいぜいレースを見たり、予想したりするくらいだ。

今回、かなり追い詰められてそんな男を捜し、適当にレースの予想を教え、的中率の高さを実証する。その後で取り分の交渉をして金を稼ぐ……と。

後はちょっと活躍すれば、他の連中も次第に予想を聞きたくなる。

これでも生き物に関する知識は凄いぞ？ 野生児同様の生活をした事もあつたり、グルメ界にだって入つた事もあつた（思えば、純粋に楽しいと思つたのはあの時だけかもしれない）。

どの馬の調子がいいか、どの馬が勝つとか、そーゆーのはしつかり分かる。……この辺りはトリロに感謝だな。

(まあ、千冬姉にバレたら殴られるだろうナビ)

「未成年が競馬だと？ 何を馬鹿な事をしている…」と鉄拳でも飛んできそうだ。

なので、ドイツにいる今が稼ぎ時。帰ってきてからは別の方法を考えなければならない。

とりあえず、アレだ。バレなければいい。稼いだ金については、俺が家計簿を握っているから隠し通せる。もしバレても「宝くじを買つたら当たった」とでも言えばいい。あの人は基本脳筋だから、そこまで詳しく知ってるわけじゃないし。

(金があつて困る事はない。裏の世界に関わるには、今稼いだ分じや到底足りない)

裏の世界は基本的にギブアンドテイク。金さえあれば大概のものは手に入る。

さすがにヨーロッパは手に入らないだろうが、試作段階で廃棄されたパーティやら、面白いものが見つかる事がある。

道具はもちろん情報もそつだ。情報は何よりも勝る武器。情報を制する者こそが、現代を生き抜く事が出来る。

さすがに裏の賭博だと、その道のプロがいるため（一応こいつも“手品”は出来ない事は無いが、やはり玄人には劣る）にリスクが大きすぎるが、競馬や競輪のような公営賭博ならば、完全に公平。

「君、こっちも予想して貰つてもいいかな？」

「はーい」

さてと、今日のノルマは稼がないとな。

番外編・玲夜ちゃんのヒロイン攻略表（H2編）（前書き）

最初に謝ります。（色々な人に対しても）「みんなさい。
これはお遊び以外の何物でもありません。ただ思いつくままに書き
綴りました。

最初は、玲夜が長い転生人生の中、「どうせだから遊んでみません
か？」と陸斗に話を持ちかけたところから始まる、「ヒロインを「
TR」なIFFっぽいSSを書こうと思つていたんですが。
何をどう間違えたのか、こんな物を書いてしまいました。

生暖かい視線でもつてお楽しみください。

番外編・玲夜ちゃんのヒロイン攻略表（HHS編）

玲夜ちゃんのヒロイン攻略講座（IIS編）

篠ノ之箒… 難易度：中

ワンサマー君の鈍感さとアリカシーの無さに、最もヤキモキしている人です。

まずは、ワンサマー君にどうぞやって振り向いてもらおうたらいいかという彼女の相談に乗ります。真摯に対応すれば彼女の好感を得る事が出来ます。

「一夏と私」で、ワンサマー君の鈍感さに悩んでるところを見たら、慰めましょう。ただし彼の事を悪く言ったりするのは無しです！ 篠さんはそう言つた陰口を人一倍嫌うタイプなので、「アイツも悪気は無いんだよ」程度に抑えましょう。

彼女の好感度が高ければ、臨海学校での「白と赤」イベントで変化が生じ、「福音襲来」が「飛翔せぬ赤」へと変化し、ワンサマー君とあなたが出撃する事になります。そうなれば篠ルートに突入したと思つて頂いても可です。

イベント名

「一夏と私」

条件：教室で、篠に一夏との関係についてアドバイスしている。

発生場所：屋上

内容：たまたま屋上へ行くと、物憂げな表情を浮かべている篠の姿
が……。

「…………一夏は何故、私の事に気づいてくれないんだろうか」

「白と赤」

条件：無し（ただし、好感度が高いと後のイベントで変化あり）

発生場所：海岸

内容：専用機持ちでないにも関わらず、何故か篠の姿もそこにある。
そこへ現れたのは…………。

「これが篠ちゃんへのプレゼントだよー 篠ちゃんだけの専用機、
その名も“赤椿”！」

「飛翔せぬ赤」

条件：篠の好感度が一定値以上。「福音襲来」の代わりに発生

発生場所：司令室

内容：束の打ち出した作戦は“白式”と“赤椿”的高度な連携戦。
しかし篠は…………。

「私は…………参加、出来ません。私に“赤椿”を使いこなすだけの
技量は、ありません」

セシリ亞・オルコット…難易度：極低

1番攻略しやすい人です。チョロいです。

序盤の「代表候補生？」は好きに答えるても大丈夫です。ただし、必須イベントの「クラス代表」では、推薦されても断つたりせず、セシリ亞さんの挑発にも答えましょう。下手に逃げてもいい事はありませんから。

クラス代表決定戦では、必ずワンサマー君より先にセシリ亞さんと戦いましょう。BT攻撃は厄介ですが、攻撃力は大した事無いので、強力な攻撃で一気に落としてしまいましょう。

代表決定戦で彼女に勝ち「ノブレスオブリージュ」が発生すれば、ほぼ問題ありませんが、他のヒロインの高感度を高めすぎると、「捻れる想い」が発生し、ヤンデレルートに突入してしまったため、注意しましょう。

「代表候補生？」

条件：無し（必須イベント）

発生場所：1年1組教室

内容：一夏の勉強を見ていると、そこへ近づく影が1人……。

「わたくしを知らないつ！？このセシリ亞・オルコットを……」

代表候補生にして、入試主席のこのわたくしをつ！」

「クラス代表」

条件：無し（必須イベント）

発生場所：1年1組教室

内容：授業が開始するも、千冬が語り出したのはクラス代表についてだった。

「……ああ、その前に再来週行われるクラス対抗戦に出る代表者を決めないといけないな」

「ノブレスオブリージュ」

条件：代表決定戦でセシリ亞に勝利している。

発生場所：学生寮・セシリ亞の部屋

内容：敗北。それはセシリ亞・オルコットに大きな変化をもたらす。

「本当の、誇り……」

「捻れる想い」

条件：セシリ亞の好感度が1位の状態で、他ヒロインの好感度が一定以上になる。

発生場所：1年1組教室

内容：のほほんさん達と談笑していると、誰かの視線を感じる。それはセシリ亞の物だったが、いつになく視線が厳しくて……。

「……誰にでも優しいのですね。いえ、それがあなたの美点なのでしょうが」

鳳鈴音：難易度：中

具体的な攻略法は第10章と変わりません。鈍感さに悩んでるのを慰めたりして、地道に高感度を高めていきましょう。

ただし、彼女が転入した翌晩に起きた「酢豚の約束」が見落としがちになつてしまつたため、注意しましょう。ワンサマー君を下手に擁護したりせず、彼女の愚痴を聞いて胸を貸してあげましょう。

「無人機襲来」では彼女が撃墜されてしまう事はまずありませんが、注意すべきは「黒い雨」イベント。ラウラとは相性が悪いため、1ターン放置しただけで大ダメージを負ってしまいます。直前の移動イベントでは可能な限りアリーナに移動するよう心掛けば、ダメージを抑えつつ救援に行く事が出来るはずです。

タッグマッチのパートナーで、彼女からパートナー指令を受ければ、鈴ルート突入です。

注意すべきはセシリ亞さん同様、他のヒロインの高感度を高めすぎるとヤンデレルートに突入してしまいます。特にシャルロットと仲良くし過ぎた場合に発生する「愛と憎しみは表裏一体」が起きてしまuftと、すぐにヤンデレ化してしまいますので、ご注意を。

「酢豚の約束」

条件：鈴の好感度が1位だと発生

発生場所：学生寮・1F廊下

内容：たまたま寮の廊下を歩いていると、走り去る鈴とすれ違う。
気になつて後を追うと……？

「……アソシにとって、あたしなんてその程度の女だったのかな」

「愛と憎しみは表裏一体」

条件：鈴の好感度が1位の状態から、シャルロットの好感度が2位になる。

発生場所：学生寮・玄関

内容：買い物から戻ると、寮で鈴が出迎える。しかし、その瞳はどこか濁つていて……。

「…………ねえ、どこに行つてたの？　ねえ、答えてよ。ねえ、ねえ――」

シャルロット・デュノア…難易度：高

ワンサマー君のルームメイトなので、なかなか隙を見せてくれません。

「シャルル・デュノア」時は高感度が高まつた際のリアクションが無いため、分かりづらいかもしませんが、見えないだけで高まつてます。

彼女の攻略には、まず彼女の正体を明らかにするところから始まります。彼女が転入してきたら、すぐに高感度を高めたり、積極的に話したりする事を心掛けましょう。ワンサマー君が先に彼女の正体に気づいてしまつたら、攻略は失敗してしまいます。

「その名が示すもの」で彼女の正体が明らかになつても、まだ攻略は終わつてません。タッグマッチ後の「新たな日常」が起きるまで、ワンサマー君に正体を気づかれなによう、彼女をサポートする必要

があります。

また、再転入イベントが終わっても注意が必要です。彼女のヤンデレージは一番溜まりやすく、少しでも他のヒロインと仲良くなるとヤンデレ化してしまいます。さらに彼女がヤンデレ化したら、強制的に「マリオネット」が発生し、DEAD ENDに直行してしまつため、その時はご愁傷様です。

「その名が示すもの」

条件：シャルル（シャルロット）の好感度が1位

発生場所：学生寮・自室

内容：たまたまシャルルに部屋の風呂を貸す事に。しかし、妙に長風呂なのが気になつて覗いてみると……。

「…………うん、見られたから分かると思つけど、僕は女」

「新たな日常」

条件：無し（必須イベント）

発生場所：1年1組教室

内容：山田先生によると、また転校生が来るらしい。しかもそれは

……。

「えっと、シャルル・デュノア改め、シャルロット・デュノアです」

「マリオネット」

条件：シャルロットの好感度が1位の状態で、他ヒロインの好感度が一定値以上になる。

発生場所・学生寮・自室

内容・部屋に戻ると、そこにはシャルロットの姿が。何故ここにいるのかを尋ねようとする。……。

「だからね、僕考えたんだ。どうやつたら君を独り占めできるかって」

ラウラ・ボーデヴィッヒ…難易度：高

彼女もシャルロットさんとは違った意味で攻略が難しいです。

大事なのは、ワンサマー君の味方をしない事。また、「銀色の転校生」で平手打ちを避けたり、反撃したりしない事。

最初の方は話しかけても邪険にあしらわれたりする事が多いです。あまり何度も話しかけると高感度が下がってしまうため、話しかけすぎずにしておきましょう。

「黒い雨」では彼女の味方をしたりせず、千冬さんが乗り込んでくるまで事態を静観しましょう。戦闘後の「黒ウサギの誇り」でラウラさんの質問につまく答えれば、タッグマッチで彼女とパートナーになる事が出来ます。

タッグマッチで彼女が撃墜されると、「ヴァルキリートレース」が発生し、バトラーウラとの強制戦闘が発生します。ワンサマー君が撃墜されていなければ、味方NPCとして彼女を積極的に攻撃しようとしてしまうので、タッグマッチではなるべく彼を早めに撃墜してお

きましょ。マーラウラのHPを10%以下にすると「シンクロ」が発生し、戦闘パートは終了します。

もし彼女のルートに入っているのなら、翌日の「新たな日常」のイベント内容が変化します。

「銀色の転校生」

条件：無し（必須イベント）

発生場所：1年1組教室

内容：転校生ラウラ・ボーデヴィッヒ。彼女からは容赦なく平手打ちが叩き込まれ……

「…………わ、私は認めない！　お前が教官の弟なんて…………笑うな！」

「黒い雨」

条件：無し（必須イベント）

発生場所：アリーナ

内容：セシリ亞と鈴の前に現れたラウラ。2人を挑発し、戦いを挑んでくる。

「ふん…………性能はまあまあだが、操縦者がこれではな」

「黒ウサギの誇り」

条件：1、「黒い雨」で行動していない。　2・ラウラの好感度が1位。

発生場所：ピット

内容：騒動を静観した後、ラウラから声をかけられる。

「簡単だ。貴様が1年の中でも最も強い。ただそれだけだ」

「新たな日常」

条件：ラウラの好感度が1位で、「ヴァルキリートレース」でVTRウラのHPを10%以下にしている

発生場所：1年1組教室

内容：シャルロットが女性であるとカミングアウトした直後、現れたラウラに唇を奪われ……。

「お、お前を私の嫁にする！ 意義は認めんー！」

織斑千冬…難易度：低

意外かもしだせませんが、難易度はそこまで高くありません。

授業中の受け答えはしっかりして、優等生でいる事を心掛けましょう。

授業後や放課後に起きた手伝いイベントをこなせば、好感度も自然と高まっていきます。

「ブラン? シスコン?」では、ワンサマー君を悪く言つたりせず、愚痴を聞く事に専念しましょう。選択を間違えてしまうと、部屋か

ら呑き出されてしまいます。

もしも、「黒い雨」時点で高感度が一定以上だつたら「ブリュンヒルデ」が発生し、彼女のルートが確定します。「ブリュンヒルデ」が発生せずとも、攻略は十分に可能です。

臨海学校の「墜ちる白」では男としての真価が問われる事になります。男らしい態度で接する事が大切です。

「ブラン? シスコン?」

条件：千冬の好感度が一定値以上

発生場所：学生寮・寮官室

内容：何故か泥酔した千冬の愚痴を聞く事に……。

「お前の10分の1でも、あのバカに危機感があればな……」

「ブリュンヒルデ」

条件：千冬の好感度が一定値以上、また「黒い雨」でセシリ亞・鈴に味方している

発生場所：ピット

内容：ラウラの暴挙を止めるも、千冬の表情は冴えない。その理由を尋ねると……?

「私は一番大切な事を、あれに教え損なった。……教師失格もいいところだ」

「墜ちる白」

条件：千冬の好感度が1位。「銀の福音（1回目）」で一夏が撃墜

されている。

発生場所：旅館

内容：ただ一人佇む千冬。その顔にはいつもの霸氣はない。心配して声をかけると……。

「……すまない。少しだけ、このまままでさせてくれ……」

布仏本音…難易度：極低

チヨロいさん以外で攻略が簡単なキャラです。

普通に話して好感度を高めていけば、問題無くルートに入れます。ただし、後述する簪ルートでは注意が必要になる時があります。

「それは水着？」

条件：のほほんさんの好感度が一定値以上

発生場所：海岸

内容：それはどう見ても着ぐるみで、いつも彼女と変わらなくて……。

「……実はちょっと暑いかも～」

更識楯無…難易度：極高

今作では3番目に攻略が難しい相手です。

まず彼女の登場が新学期前だとランダムである事です。生徒会室、アリーナ、中庭にランダムで出現し、3回のランダムイベント「あれは誰？」をこなす事で、彼女と自由に接触できるようになります。アリーナで起きるランダムイベント「学園最強」では彼女との強制戦闘が発生します。1週目ではまず勝てません。HP 50%以下にすればイベント発生で戦闘終了。高感度が上がります。

1番のミソは、彼女の好感度が一定以上で発生するランダムイベント「一夜の過ち」。発生確率は低いですが、発生すれば彼女のルートが確定します。

ただし、発生しない場合がほとんどですので、「新しい日常」後は彼女と簪さんの仲を取り持つ事に専念しましょう。

鈴さんが転入していくまでに彼女と遭遇できなければ、攻略は諦めましょう。

「あれは誰？」

条件：ランダム

発生場所：生徒会室、アリーナ、中庭

内容：訪れる先で、扇子片手にこちらを見つめる女子生徒の姿が…

.....。

「ふふふ。また会いましょ」

「学園最強」

条件：楯無と知り合っている事が前提。その上でランダム。

発生場所：アリーナ

内容：E.S学園生徒会長は学園最強の証。最強といつたが惹かれ、彼女と戦う事に.....。

「おねーさんも久々に本気出しちゃった

「一夜の過ち」

条件：楯無の好感度が一定値以上。その上でランダム。

発生場所：自室

内容：何故か部屋にやつて来て、妹や一夏の事で愚痴る楯無。いつしか酒が回り、そして.....。

「すついぐ激しくて.....私、壊れちゃうかと思つちやつた

更識簪…難易度…極高

今作では2番目に攻略が難しい相手です。楯無さんを攻略後に解放されます。

比較的簡単に遭遇できますが、好感度が上がるようになるのは「生徒会長の頼み事」か「のほほんさんのお願い」が起きてからです。後者ならともかく、前者は前述したランダムイベントで楯無さんと遭遇していなければ発生しないイベントで、発生確率は極めて難しいです。そのため後のイベントを発生させるのが1番ですが、のほほんさんの好感度を高めすぎると彼女のルートに突入してしまうため、注意が必要です。

そして最大の難関となるのが「のほほんさんの頼み事」を発生させた場合にのみ起きる「最凶のシスコン」イベント。最後には楯無（天元突破）さんと戦わなければなりません。ある意味彼女がラスボスなので、死ぬ気で戦いましょう。HPが30%になると「ド根性」が3回かかり、4回目には「魂」「ひらめき」「集中」「鉄壁」「不屈」がかかります。

「生徒会長の頼み事」

条件：楯無、簪と知り合っている

発生場所：生徒会室

内容：楯無の呼び出しを受け、生徒会室へと赴く。いつになく真剣な顔の彼女の頼み事とは……？

「お願い！ おねーさんのお願い聞いてくれたら、何でも好きな事してあげるからー。」

「のほほんさんのお願い」

条件：のほほんさんの好感度が一定値以上

発生場所：1年1組教室

内容：「どうなく真剣つぱこ」のほほんさん。そんな彼女のお願いとは……？

「簪ちりやんつて言つんだだけじゃね、ちゅつと色々あつて専用機が無くて～」

「最凶のシステム～」

条件：1、「のほほんさんのお願い」を発生させていく。 2、簪の好感度が一定値以上

発生場所：生徒会室

内容：簪がうまくやつている事を嬉しく思いつつも、寂しさを憶える櫃無だったが……。

「…………最近、お姉ちりやんが怖いよつな氣がすむ」

「最凶のシステム～」

条件：「最凶のシステム～」を発生させてくる。

発生場所：廊下

内容：櫃無の様子がおかしい事を虚から聞いてしまった。ちゅがに変な事はしでかさないと思つが……。

「とにかく、今の会長には気をつけたださー。正直などいろ、何をしでかすか分かりません」

「最凶のシステム～？」

条件：「最凶のシスコン？」を発生させている。

発生場所：生徒会室

内容：生徒会室へ呼び出され、楯無に簪との仲を問い合わせられる。そこへ簪が現れ……。

「私は、私の意志で好きになつたの……だから、私の「好き」を否定しないで……！」

「最凶のシスコン？」

条件：「最凶のシスコン？」を発生させている。

発生場所：中庭

内容：簪の拒絶に打ちのめされた楯無だったが、憤怒やら嫉妬やらの感情が爆発し、彼女の戦闘力が天元突破する……！

「 こう、して、あげ、る」

篠ノ之束…難易度：極高

今作で1番攻略が難しい相手です。彼女以外の全ヒロインのルートを攻略して、解放されます。

まず専念すべきは、臨海学校までのヒロインの好感度を高めすぎない事です。好感度を抑えつつ臨海学校に突入すれば、攻略の糸口

が見えます。

「福音襲来」では、密漁船が発見されるより前に福音を撃墜します。擊墜出来なければ「墜ちる白」が発生してしまい、彼女の攻略が失敗してしまいます。撃墜に成功すると、「しろきし・しろしき」での千冬と束の会話が変化します。

夏休みでは、他のヒロインから誘いを受けても断り、街を散策します。ランダムで束さんが登場し、「世界は束さんを中心回っている！」で拉致されます。拉致イベント後の無人機戦は負けたら即ゲームオーバーです。代表戦で戦った時よりも数段強化されており、その上複数登場するので注意しましょう。

また彼女のルートでは、学園祭でのアラクネとの戦闘に、味方増援が出現しません。

「しろきし・しろしき」

条件：1、「銀の福音（1回目）」を撃墜している。
2、一夏が撃墜されていない。

発生場所：海岸

内容：“銀の福音”の撃墜。それは束にとつても予想外の状況であり……。

「…………邪魔だよねー、あれ」

「世界は束さんを中心に回っている!」

条件：1、束以外のヒロイン的好感度が一定値以下。
福音（1回目）」を撃墜している。

発生場所：街

内容：ふと、街をぶらぶらしていると、見覚えのある耳が地面から

生えているのを見つけてしまった。……。

「单刀直入に言つちやうと、束さんは君を拉致りに来ました。いい！」

五反田蘭…難易度：高

隠しキャラです。もしかしたら攻略できる事を知つてゐる人は少ないかもです。

最初からワンサマー君に惚れてる状態ですし、なかなか接点が無いため、彼女と接触できるタイミングを逃さないよう気をつけましょう。

大切なのは、必ずワンサマー君に付き合つて五反田食堂へ行く事。途中、部屋から出る選択肢が出現しますが、部屋を出ると蘭さんは遭遇できます。

彼女の攻略で一番のミソになるのは「蘭の相談？」。彼女の相談には真面目に対応しましょう。また、ワンサマー君と接触させる選択肢もあるべく控えるのもコツです。

「蘭の相談？」

条件：一夏に付き合つて五反田食堂へ来ている。

発生場所：五反田家・廊下

内容：弾の部屋から出ると、たまたま知らない女の子と遭遇する。五反田蘭と名乗った彼女は質問をぶつけてくるが……。

「あの、一夏さんって誰か特定の女の人と付き合つたりとかしてますか？」

「蘭の相談？」

条件：1、「蘭の相談？」を発生させている。 2、他ヒロインの好感度が一定値以下。

発生場所：篠ノ之神社

内容：神社にて、浴衣姿の蘭と遭遇する。そんな彼女はある相談を持ちかける。

「それでもやつぱり、あの人の事好きですか？」

「ラツキースケベ」

条件：必須イベント（ただし、「蘭の相談？」を発生させないと変化あり）

発生場所：篠ノ之神社

内容：蘭と一緒に境内へと戻つてくると、そこには一夏と篠の姿があつたのだが……。

「…………一夏さん、最低です」

「蘭の相談？」

条件：「蘭の相談？」、「ラツキースケベ」を発生させている。

発生場所：廊下

内容：学園祭でたまたま蘭と遭遇し、再び相談を持ちかけられる。ただ、今回は蘭の様子が少し違つていて……。

「ええ。しつかり考えて、それで決めました。一夏さんの事とは関係無しに」

更識姉妹：難易度：多分兄さん以外には無理
別名「更識姉妹丼ルート」。

全ヒロインの中で、更識姉妹の好感度が高い場合にのみ突入。
具体的に内容を説明すると「一夜の過ち」の時に、簪さんが乱入。
2人纏めて美味しく頂いてました。

見てて1番「リア充爆発しろ」と思いたくなる展開でしたね。

番外編・玲夜ちゃんのヒロイン攻略表（H2編）（後書き）

これらは全て、兄さんが実際にやった事を基に（作者がお遊びで）作成しました。

もし好評だったら、また考えてみます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4164z/>

とある兄妹の連續転生物語～憑依編～

2011年12月21日10時46分発行